

# 神戸遊戯誌 112

☆強剛選手の輩出と御師、  
神一中、県商の活躍

明治末期から大正、昭和期へかけて神戸市内の各町道場の柔道の人気は年々高まっていった。諷訪山西麓に偉容を誇る武徳殿に設けられた武徳会兵庫支部が県下柔剣弓道の中心的存在としてつづいたことはむろんだが、当時の地理的悪条件と指導時間（朝七時—八時半）も影響してむしろ町道場の方が栄えたわけだった。それらの市内の町道場は十指を越えたが、それら諸道場の優秀な柔道マンを拾うと、遷武館の田辺輝夫（八段、岡山県出身、日本選手権第二位）、精武館の山本正信（八段、日本選手権二回優勝、大正九年天覧試合第三位、東西対抗出場、東西外地一回出場、大正十五年天覧試合出場、警察大会個人優勝）、大正初期からスタートした「講道館」系の岩屋青年会会場（安国幸左衛門主宰）の村治精治郎（九段、大正四年天覧試合出場、日本選手権に三回出場



戦前の練習風景

して一回優勝）、直武館の助永明司八段、大正中期に作られた同じ「講道館」系の修養館の藤善稀雄、その他後藤素直（八段、東京出身、日本選手権一回出場、大正四年天覧試合出場）、時実克巳（八段、日本選手権に二回出場して一回第二位、東西対抗二回、東西外地対抗、日満対抗にも出場）、宮川善一（八段、長崎市出身、県警日本選手権出場、東西対抗二回）、岡元正夫（七段鹿児島市出身、日本選手権に一回、東西対抗三回出場）、藤田軍機（岡山県出身、神戸一中から県商、税関）、小角弥三次（徳島県出身、県警）各氏と多士さいいだつた。また神戸生まれのおもな柔道家には先に述べた助永、山本両八段はじめ村井又二八段（現県警主任師範）、浜田亀千代七段、西本克己七段、森田荘二七段（現税関）、植田治六段（現県警）らがいる。

このほか大正七年創設の例の実業家、政治家として有名だった内田信也氏主宰の順道館からも多く優秀選手が育った。同館は須磨池の東南隅に総ヒノキで作られた



10周年記念・精武館にて

柔道 ③ 青木 重雄

まさに武術の殿堂にふさわしい建物だったが、第四高等学校の岡部先生（五段）を迎えてもっぱら内田氏の社員に習わせた。同市は寝わざが得意で毎晩社員たちに寝わざをコーチした。このほか磯貝一（故人、十段）小角弥三次、助水明司、村治清治郎、田辺輝夫氏などをも柔道部として呼んで技術を磨いたので一時は有段者五段以下が二十余名もいるという隆盛ぶりで、内部だけではなく他流試合にも出かけ、とりわけ拓大、東大、早大などの各柔道部とよく試合をやつた。この道場へは大人、青年だけでなく少年たちも喜んでけいこに出てかけた。柔道に魅力があつたことはもちろんだが、練習のあとは内田氏のきも入りで、大人にはビールがふんだんに振る舞われ、少年たちはスキヤキやうどん、カレーなどが出されたことがもう一つの大きな楽しみだったことは有名な話である。同道場開きの時、内田氏が当時の大相撲の柄山、大錦、玉錦闘などを招待して「お前さんたちも柔道をおぼえたらどうか」とすすめたが、この時余興に田辺輝夫先生が柄山闘と試合をしてみごとに柄山闘を背負い投げで投げ飛ばした。一度ならともかく、二度、三度と投げられたので、とうとう本気になつて怒った彼が田辺先生を振り回したというエピソードもある。なお、ついでに上記の著名選手以外に県下に伊勢茂一と猪丸吉左衛門の両猛者（もさ）がいたことをつけ加えておきたい。

さて、戦前の学校柔道を概観すると、中学校ではなんといつても御影師範が抜群で、大正末期から十数年間全國制覇の偉業を成しとげた。当時中学生に比べて師範の学生の年齢が総じて二歳ほど長じているのが普通だったため、これでは御影師範が強いのが当然だという非難が出て、後年中学と師範との二部制の原因となつたほどである。御影師範に迫る県下校に姫路師範、神戸一中、同志社大へ進み六段となる）がいた。彼は一風変わつて、冬でも浴衣に紋つき、それにホウバのゲタ（下駄）をはいて外を悠々と歩いた。昭和十三、四年頃神商主将だった伊藤安吾氏（のち関学へ進む）も大阪浜寺の全国中等学校大会で大いに活躍した。これらのことを見つけても、神戸のオールドファンにとつてはあの頃の御師の四年間全寮制に与えられた猛練習や県商の一回目の御師の四年間全寮制に与えられた猛練習や県商の一回目のシゴキ、神一中の六高との合同夏季合宿の精進振りなどは終生忘れ得ぬ思い出であろう。

（昭和四七・一二・一記）

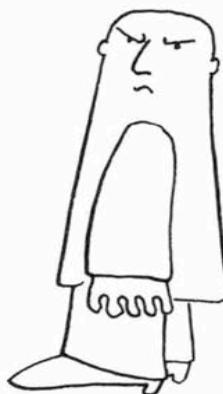
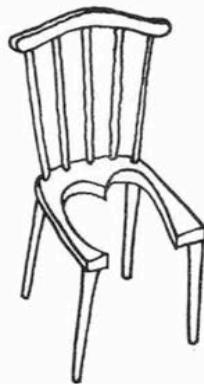
展に尽くしている）、吉田四一八段（昭和四年天覧試合府県代表部第二位、昭和九年同試合第三位、立ちわざが得意）、松本芳三八段（文理大卒、現在教育大教授、講道館長の片腕として柔道界の中心的存在）の三人は日本柔道界に大きな足跡を残している。つづいて打倒御師に燃える神一中、県商等よりもあまたの名手が現われたが、大てい卒業と共に柔道界を去つたのは惜しい。神一中から六高、京大へ進んだ早川勝（日本選手権二回出場、現経団連理事、当時全国的に有名だった）、同じく神戸一中の代表選手だった占部春太郎（故人）、県商時代からだは小さいが、寝わざの天才とうたわれた覚前克巳（かくせんかつみ、三段）同じく県商の名手大月志郎氏らはみな卒業と共に消え、県商五年で四段となつた西本克巳氏も名古屋高商で終わっている。彼がその後も柔道をつづけておれば、木村政彦氏と共に天下を三分する実力者となつていたことと惜しまれる。ちなみに中学生時代に四段位をとつた者は兵庫県では初めて（全国でも珍しい）だつたで、当時関係者をアッといわせたものである。

このほか姫路師範の牧野明男氏は二段の時東京講道館で全勝して帰る時は三段という抜群の成績をあげたし、関条中の田中源一氏は昭和五年明治神宮大会の一般少年組選手試合で優勝したが、この時の決勝戦の相手は後年早大の強剛として有名だった笠原岩夫選手（宇都宮中）である。三田中には鬼才秋山勝一氏（故人）、のちに同志社大へ進み六段となる）がいた。彼は一風変わつて、冬でも浴衣に紋つき、それにホウバのゲタ（下駄）をはいて外を悠々と歩いた。昭和十三、四年頃神商主将だった伊藤安吾氏（のち関学へ進む）も大阪浜寺の全国中等学校大会で大いに活躍した。これらのことを見つけても、神戸のオールドファンにとつてはあの頃の御師の四年間全寮制に与えられた猛練習や県商の一回目のシゴキ、神一中の六高との合同夏季合宿の精進振りなどは終生忘れ得ぬ思い出であろう。

卒、東京高師卒、現講道館涉外部長として世界の柔道發

ハーバートマライム・ジョンソンズ

1 椅子★岡田 淳





トアロードの坂道をのぼり下山手四丁目の角にある専売公社の神戸営業所。今月は金口正明所長をたづねて、煙草談義に耳を傾けました。

「46年の4月まで盛岡にいまして、東北の空気のよさ、人の純朴性にひたつっていたのが、正反対のモダーンな神戸へ転勤です。1年半この神戸とつきあつた訳ですが、何がいい街だといわれるのか考えてみると、庶民的な開放性ですかね。それを山あり海ありで良い街だと表現しているんでしょう。神戸の愛煙家の特色は、高級品がでる、エキスポートは全国で1位、2位ですね。セブンスターは売れるけれどチエリーは売れない。スカツとしたデザインを非常に好みますね。年間29億本、120億円が神戸の街で煙と消えているわけです。よく売れるのはセブンスター、エキスポートで、軽い煙草がお好き。ニコチンタールが少ないということで軽い煙草がもてるのです。煙草は害になるとかんといわれるけれど、けむりが輪をつくるように、人の和をつくっていますね。だから私達もこの仕事にプライドを持つてあたっている。お客様の要求などどう満足してもらおうかと考えましてね。

煙草は害になるとかんといわれるけれど、けむりが輪をつくるように、人の和をつくっていますね。だから私達もこの仕事にプライドを持つてあたっている。お客様の要求などどう満足してもらおうかと考えましてね。

★とーく・さろん〈1〉

神戸大丸1Fの神戸タバコサービスセンターで金口所長



神戸大丸1Fの神戸タバコサービスセンターで金口所長

## 神戸っ子と煙草

29億本が眼にしめる

金口 正明

〈専売公社神戸営業所長〉



★新発売 新平家物語「敦盛と熊谷」の

須磨の浦の合戦を錦絵で描いた神戸の観光煙草

初春におくるマロヤカな味

Goncharoff A Happy New Year



名門の風格  
ゴンチャロフ

A HAPPY NEW YEAR



★ヨーロッパのトップモードの直輸入を服部メガネが  
オリジナルパターンに。

★豊富なストックで度付カラーレンズがすぐできます

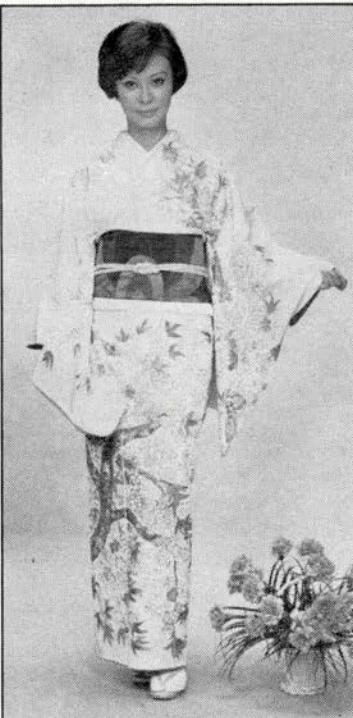
★

顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

新玉という美しい言葉の冠りつけて年のはじめになりますと、はなやかに長いたもとをやさしく揺つて若々しい娘さんたちの着物姿を街頭に多くみかけます。この頃の味気なく殺風景な正月の町も、この美しい花の出現に明るく春めいて、ふと昔ののどかなお正月の気分が心によみがえります。思えばここ三十年ほどの生活様式の移り変りの中で、まるで渦にまきこまれてしまう小舟のよう、和服は姿を消してゆきました。着物という形には変りなく、色彩や着付けや附属品はその時々の流行を映し、呉服店には新しい工風の反物が飾られ、テレビの映像にも舞台にも、着物の姿はみかけられますので、私たちの生活の中にまだ着物があるような錯覚があります



### 描き絵の上野

□ふんえいもんのせいもんのよしおき

で、それは長い間の毎日の生活の中で着こなされた美しさだと思います。着物を美しく着るには、型にはまつたつと長年キモノを着ています。キモノはこの日本の気候で、着物は縁が近いわけですが、この長い歴史を通じて磨きあげられた美しさをもつ「着物」を、ただの飾り物としてではなく、日本人の美として保ち、育て、うけついでゆきたいと心から願っております。

が、いつのまにか日本の衣服としての着物は私たちの日常生活の中のものではなくなっています。戦争の話になると必ずと言っていいくらい出てくる、あの「モンベ」、たもとを切つて短い袖にし、モンベをはかねばならぬほど、当時は和服がふだん着であったのだと思います。あれから三三十年に、はじめは活動的でないというために退けられた和服が、今では若い人達に「着物の着かたをならないたいわ」といわれるほど縁遠いものになります。公害で失われてゆく自然の縁と同じように気がついてみると日本人の日常生活の中で影うすくなり、特殊な場合の装飾品となつております。

たしかに日本の着物は美しく、外国の婦人がお世辞でなく着たがるのは、民族衣裳としてキモノが秀れて優雅なためです。美しさで飾りたいのは女性の心であり自然の憧れでございましょう。若い人たちが晴着に和服をえらび、結婚式に和服をえらぶのも当然のことです。写真の宝塚の甲にしきさんの着物は、私の作品の一つですが純金泥で桜の花弁の一枚一枚からかいた豪華なもので、甲さんは世界で一人しか着ていないというよろこびで持っているだけでも楽しいそうです。そしてこの次は自分で描いた着物を着たいと、今は忙しい中を一生懸命絵の勉強中です。



EXTEND IMPERIAL FA

あけまして おめでとう ございま



トータルインペリアルヨーロピアンファッションのユニークなコレクション

S

# 賀 正

ズウェア MERCURY

## マーキュリー



商品を揃えてご来店をお待ちしております。

## マーキュリー

神戸店 大丸前山側角 Tel.(078)331-7857

大阪店 ミナミ地下街虹のまちボタン通り  
Tel.(06)213-6158

謹賀新年

昭和48年  
元旦



不二屋オリジナル家具と  
世界の一流ファニチア  
インテリアファニシング  
をコレクションしたトータルインテリアサロンを  
新阪急ホテル隣、北阪急ビル一階で開店いたしましたのでぜひ御引立ての程お願い申し上げます。



リビングづくりのアドバイザー

**MAPLE**

FUJIYA

KITAHANKYU BULD.

55 SHIBATA-CHO KITA-KU OSAKA  
大阪市北区芝田町55(北阪急ビル)阪急のーる街  
TEL. (06) 373-0521(代)

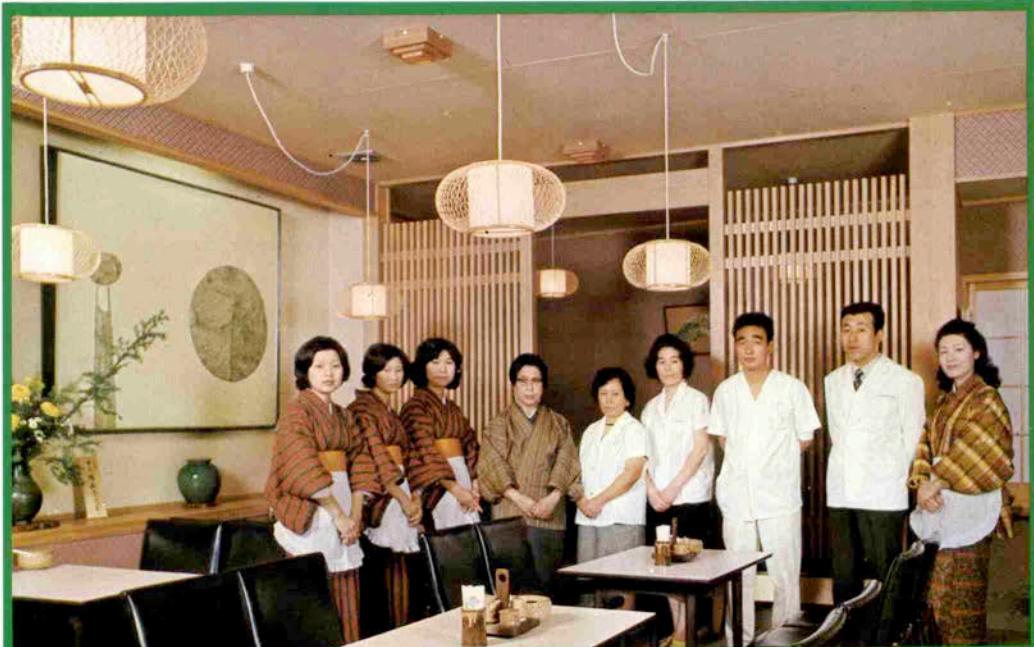


本社  
株式  
会社

不二屋

本社 神戸市生田区三宮町3-5  
TEL (078) 391-0535(代)  
工場 神戸市垂水区多聞町小東山975  
TEL (078) 706-5914

あけましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願ひします。



## 京風御食事処

海の幸 “潮くみ”	700円	山の幸 “杉”	600円
季節御飯	500円	茶めし	350円
おにぎり	350円	お茶漬	300円



神戸元町3丁目本通り

★あじ屋2F

TEL 078-331-7368

謹  
賀  
新  
年



モデル（原田三千子さん）  
トアードのシンコーフラワーセンター



世界中の主な都市へあなたのお花をお届けします。



株式  
会社 **シンコーフラワーセンター**

本店 三宮トア・ロード TEL078(331)9221  
オリエンタルホテル店 TEL078(331)3337

神戸国際会館売場 TEL078(231)2868  
芦屋店 TEL0797(31)1027三越百貨店内 TEL078(341)7471

1月のインタビュー

笹田 泉

## 新しく大きく飛躍する'73

神戸大丸百貨店浅田武澄店長をたづねて



昭和48年秋増築完成図

DAIMARU, KOBE  
電話 (078) 331-8121 (大代)

## 世界の逸品がそろう 4階 サロンドグウ

インタビューの笹田泉ちゃんを浅田店長が「いちばんKOBEにふさわしいコーナーです」と案内したのは4階の「サロンドグウ」の世界のファッションから、インテリア、高級雑貨、小物類までの逸品が、カラフルに、格調高くかざられていて、見ているだけでも心豊かになるステキなサロンです。

新春の街に電気ドリルの音が響く。今日は、建築完成を今秋に控え、工事も急ピッチの神戸大丸に、浅田武澄店長をお訪ねした。

浅田 年が明けていよいよですね。

笹田 ええ。四十六年秋の増築に次いで今秋の完成

で一応すべて完了です。

笹田 随分広くなるんでしょう。

浅田 延べ三万九千平方メートル。坪にすると一万

二千坪ですか。

（一万二千坪!!）ウチが五〇坪だから……などと考え

（二千坪ですか。）

（一万二千坪!!）

（ウチが五〇坪だから……などと考え

浅田 すでに準備も着々進んでます。楽しみにしていて下さい。

笹田 ところで、デパートはもともと外来のものでしょ？現在の日本のデパートは世界一ですか？

浅田 身びいきではなく、日本のデパートは世界一ですよ。バラエティーに富んだ商品、ゆき届いたサービス。何よりも若くて美人の店員が多い。特に大丸はネ!!（笑）

（なるほど。道理で店長が潰刺としておられる訳だ。男性に年を聞くのは失礼だから（？）何をなかつたが、大学生のお嬢さんがおられる、というから：

（…）

浅田 実は以前、外国で二〇代にまちがわれたことがあるんです。（笑）いくら日本人が若くみえるといつても二〇代とはね…。でもデパートに勤めていると、いつも若い人や新しいアイディアにとり囲まれていて老ける暇はありませんよ。アイディアといえば、私は今トイレ用品に興味があるんです。これらが明るく楽しいトイレの演出に力を入れようと思つてます。何といっても、トイレは斬新なアイディアがいっぱい生まれる所ですからね。

笹田 最後に新年のご抱負は？

浅田 従業員が元気に朝の挨拶ができる職場、できることがお客様へのサービスにつながる、というモットーを常に徹底させることです。平凡ですが一番大切なことだと思います。

★

浅田 精神的にも物質的にも人間の欲望を満たし、憩いと人間的な触れ合いのあるコミュニティー、といふことです。この理想を、ぜひ“新装大丸”で実現させたいと思っています。

笹田 すると店長の“デパート像”とは？

浅田 でも私はね、大きくなつた部分を只、むやみに品物で埋めるだけでは無意味だと思ってるんです。でも始まらないが、とにかく、トッテモオオキイインダつてことはわかる）

浅田 でも私はね、大きくなつた部分を只、むやみに品物で埋めるだけでは無意味だと思ってるんです。 笹田 何か具体的なアイディアは？



コンサルタントの松浦さんからアドバイスをうける 笹田さん  
(タ・ミューズコーナーで)

# 冬の桜

中村 隆

初冬に咲く桜なんて  
聞いたこともないが

この広い庭園いっぱい

彼岸桜が小さい花をつけている

餅花がこぼれるような

まさしく ほんもののサクラだ

暖冬異変の狂い花か

スモッグや死の灰の仇花か

古い湯泉宿でとつぶりと湯につかり

正月の花見とはシャレたものだが

夏の雪

冬の花やら

新しい季語を見つけたつもりの人間への  
酷しい自然のしつべ返しの兆しかと

昏れ残る冬の桜に目をやると

行き悩み さすらう人魂のごとく

白々と風の中を舞い狂うのだ



カメラ・藤原保之